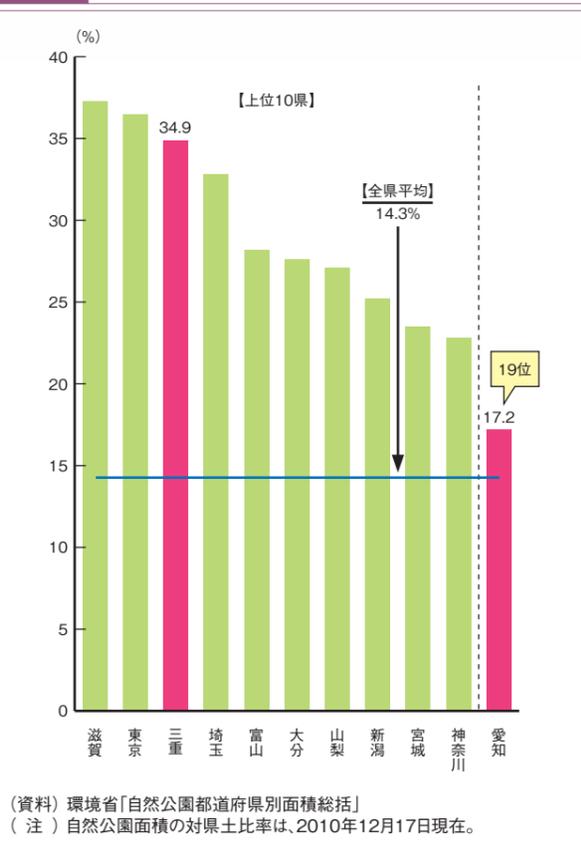


図表1 自然公園面積の対県土比率(都道府県別比較)

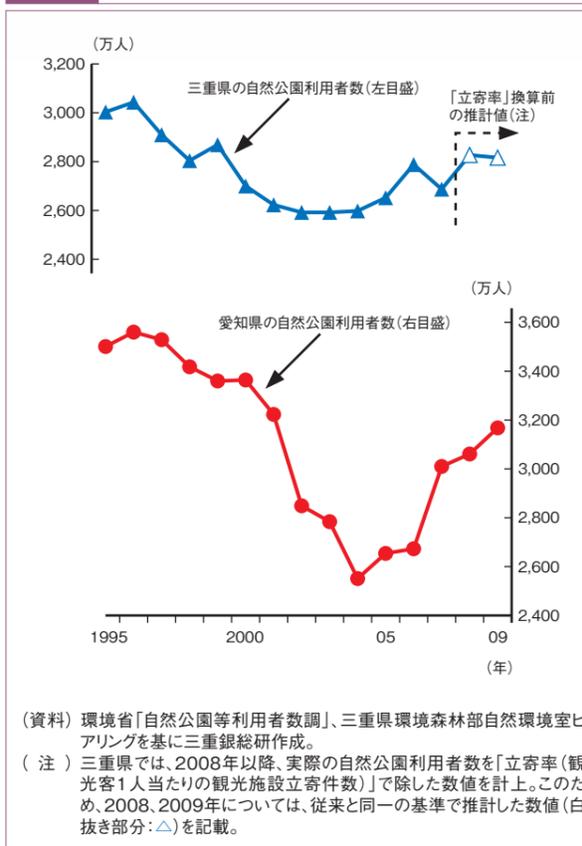


図表2 三重・愛知の自然公園の利用者数(2009年)

県	区分	公園名	利用者数(千人)
三重	国立公園	伊勢志摩国立公園	7,934
		吉野熊野国立公園	834
	国定公園	鈴鹿国定公園	2,497
		室生赤目青山国定公園	1,724
	県立自然公園	水郷県立自然公園	5,943
		伊勢の海県立自然公園	253
		赤目一志峡県立自然公園	246
		香肌峡県立自然公園	495
		奥伊勢宮川峡県立自然公園	565
		県計	20,491
愛知	国定公園	天竜奥三河国定公園	2,201
		飛騨木曾川国定公園	5,592
		愛知高原国定公園	5,531
		三河湾国定公園	12,107
	県立自然公園	桜淵県立自然公園	232
		石巻山多米県立自然公園	285
		段戸高原県立自然公園	2
		振草溪谷県立自然公園	19
		本宮山県立自然公園	530
		南知多県立自然公園	4,657
渥美半島県立自然公園	525		
県計	31,681		

(資料) 環境省「自然公園等利用者数調」

図表3 三重県と愛知県の自然公園利用者数の推移



図表4 三重・愛知両県のエコツアー(2011年3月)

県	団体
登録ツアー名	
三重	特定非営利活動法人赤目四十八滝渓谷保勝会
エコトリプル百選赤目四十八滝再発見エコツアー	
赤目の木を診る・木を知る自然体験エコツアー	
三重	合歡の郷 Hotel&Resort
自然生き物探検隊	
森の秘密基地で遊ぼう	
三重	くまの体験企画
熊野古道女性一人旅応援プラン	
初めての熊野古道エコツアー「熊野古道中辺路・熊野本宮～終着の地からの旅立ち～」	
三重	志摩自然学校
英虞(あご)湾エコツアー サンセットツーリング	
三重	第48回自然公園大会三重県実行委員会
第48回自然公園大会(野外活動)	
三重	紀南ツアーデザインセンター
「熊野発-紀伊山地南部の紅葉 ベスト4」～秋色に染まる大峰・大台の山々を廻る～	
「熊野川で過ごす一日」～川舟で巡る熊野古道川丈道・浅里の二の滝・川エビ川カニ漁～	
三重	三重県観光開発株式会社
朝熊山 エコウォークとアウトドアクッキング	
三重	(有)オス・海鳥遊民くらぶ
鳥羽若女将と行く海の町ツアーシリーズ 相差ご利益海女の町ツアー	
無人島たんけんツアー/島の裏側たんけんツアー	
三重	特定非営利活動法人 海山ITフォーラム
世界遺産「始神峠」桜祭	
三重	農林水産体験等推進部会
農林水産体験イベント	
愛知	ムートトレック
北ハケ岳スノーレッキング	
愛知	株式会社農協観光 中部グリーンツーリズム支店
郡上八幡と里山の味覚探訪&山菜まるごと体験	
初夏の白馬 森林ネイチャーウォーキング&花めぐりウォーキング	

(資料) 環境省HP「エコツアー総覧」

1. 全国上位にある三重県・愛知県の自然公園面積比率

- 製造品出荷額が全国上位の愛知県(2009年、1位)や三重県(同、9位)は、「ものづくり」の拠点としてのイメージが定着している一方、自然公園面積が県土の割に大きいなど、自然環境の豊かさにも目を見張るものがあります。
- 自然公園とは、環境省が管理する「国立公園」、都道府県が管理する「国定公園」・「都道府県立自然公園」から成り、いずれも自然の風景地を保護するため、開発などの人為を制限するとともに、風景の観賞など自然と親しむ利用がしやすいように、必要な情報の提供や利用施設の整備が行われている公園です。ここで、環境省の資料により、自然公園の県土に占める割合を都道府県別に比較すると(図表1)、三重県が34.9%と全国で3番目に高くなっています。さらに、愛知県(17.2%)についても19位ながら、全国平均の14.3%を上回っています。
- 自然公園は、守るべき自然環境であるとともに、貴重な観光資源でもあります。実際、2009年の自然公園の利用者数をみると(図表2)、三重県では2,049万人と、県内人口(2009年:187万人)の約11倍となっています。さらに、愛知県では県内人口(同年:742万人)の約4倍となる3,168万人が訪れており、自然公園は主要な観光地としての役割も果たしています。

2. 自然環境を観光資源として活用していくために

- 近年の三重県、愛知県の自然公園利用者数については、両県ともに増加傾向を辿っています。実際、環境省「自然公園等利用者数調」により、三重県、愛知県の自然公園利用者数をみると(図表3)、2000年代半ばにかけて落ち込んだものの、愛・地球博(2005年、愛知県)など環境関連イベントの開催や、熊野古道の世界遺産登録(2004年、三重県)をきっかけに、2005年頃より持ち直しの動きがみられます。
- こうしたなか、自然環境を活かした新たな観光として、「エコツーリズム」を推進する動きが各地でみられるようになってきました。エコツーリズムとは、従来のパッケージ・通過型の観光とは異なり、地域の自然環境の保全に配慮しながら、時間をかけて自然と触れ合う観光のことで、環境省が普及・定着に向けて制度・環境の整備を行っています。
- この点について、環境省HP「エコツアー総覧(2011年3月時点)」をみると(図表4)、三重県では10団体、愛知県では2団体の活動が紹介されています。今後、エコツーリズムを推進する動きが広がっていく中で、自然環境への関心が、観光を通じたルートで一層高まっていくことが期待されます。

中 朋生